

未来を拓く国語教育の創造

—評価活動の充実を通して、学びの質を高める単元づくり—

主体的に話し、自己充実を目指す児童を育成する単元づくり

1 研究主題を受けて

平成29年度に告示された学習指導要領が令和2年度より全面実施となった。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、一人一台端末の整備が急速に進み、中教審においても「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」が示された。このような中で、改めて児童一人一人に「学ぶ力」を育むことが求められている。都小国研では、平成27年度より研究主題を「未来を拓く国語教育の創造」とし、国語科において児童が身に付けた豊かな言葉の力を他教科や日常生活に生かす豊かな言語生活者を育成することを目指してきた。

また、副主題を「評価活動の充実を通して、学びの質を高める単元づくり」とし、研究を進めている。「どのような力が身に付いたか」について教師と共に児童自身が自覚し、自らの学習を調整しようとする態度等の伸長を図ることで評価活動を充実させ、学習評価を学習改善や指導改善につなげていくことで学びの質を高める単元づくりを実現していきたいと考えた。

多摩地区研究会話すこと・聞くこと部会では、都小国研の研究主題を受け、昨年度に引き続き「主体的に話し、自己充実を目指す児童を育成する単元づくり」を研究主題として設定した。「自己充実を目指す」とは、自分の考えを相手に理解してもらえるように伝えたり、相手の考えを聞いたりすることで、自分の学びがより豊かになる経験を得ることである。話すことを通して、話してよかったという満足感や充実感をもち、もっと話したいという学習意欲を高めることが、児童の主体的な学びを支える力となると考える。

部として考える評価活動は、以下の通りである。

①「児童にどういった力が身に付いたか」という学習の成果をとらえる評価の工夫

- ・具体的な話し方の観点の提示と振り返りシート

発表を行うにあたり、話し方の観点を具体的に提示した。また、児童がどのような観点を意識して発表したのか、学習を通してどのような気づきがあったのかを振り返りシートで見取れるようにした。

- ・タブレット端末を活用した学習記録の共有

タブレット端末に記録された児童の練習動画及び発表の様子から、児童がどのような力を身に付けたのかを見取れるようにした。

②教師が指導の改善を図るための評価の工夫

- ・学習のまとめりごとの振り返り

学習のまとめりごとに振り返りを評価し、児童の到達状況を把握することで、次時の学習に生かす指導助言を行えるようにした。

③児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるための評価の工夫

- ・振り返りシートの活用

授業の中での振り返りが新しいめあてにつながるように、めあてと振り返りが一体化した振り返りシートを活用することで、児童自身が自己のめあてを意識化し、達成状況を把握していけるようにした。また、友達からの助言や評価をうけて、即時に自分のめあてをステップアップしていけるような形を工夫した。授業の終わりには、どのような助言が効果的であったかについて共有する時間を確保した。さらに、単元のまとめりごとに自己評価するワークシートを工夫することで、身に付いた力を自覚しながら、学びを積み重ねていけるようにした。

・タブレット端末の活用

タブレット端末を活用しながら友達の話し方の良さに気付いたり、発表の様子を共有したりすることで、グループ間での助言をしやすくすることを目指した。

2. 対話的な話し合いを支える基本的手立て

多摩地区部会では、これまで、以下の内容を基本的な手立てとして積み重ねてきた。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策を考慮し、必要な手立てを選び、活用することとした。

話し合いの手引き

児童に、話し合いの進め方や発言の仕方、役割などが分かる「話し合いの手引き」を持たせ、必要に応じて活用させる。児童が「話し合いの手引き」をモデルにして、話し合いの進め方や適切な言葉づかいを知り、活用していくことをねらっている。本単元だけでなく、国語科の他の単元や、さらには他教科等でも活用していく。

話し合いの可視化

・進捗ボード

単元の学習計画表のこと。児童が単元を通して見通しをもって学習活動を進めるために有効である。「本時の話し合い活動」がどこに位置しているのかも捉えやすい。

・話し合いボード（※本時の流れを示すもの）

1時間の学習の流れを示したもの。その時間の話し合いの手順がわかる。グループや全体の話し合いの進行状況を視覚的に確認することで、見通しをもつことができる。また、教師がグループの進捗に応じて支援する際にも有効である。

・個人カードの工夫

全ての児童が課題意識をもって話し合うためには、一人一人が自分の考えをもって話し合いに臨むことが大切である。そのため自分の考えや、そう考えた理由を書いたカードを持って、話し合いに参加させる。自分の考えをまとめておくことで、児童は自信をもって発表できるようになる。

・テーブルシート※「テーブルシート」の名称については、平成12年度より、本部会で使用しているものである。

児童の個人カードをその上で動かす、大きな一枚の台紙のこと。児童は、話し合いの中で発表とともに、カードを台紙に並べていく。並べられたカードを基に、互いの共通点や相違点を整理（重ねたり、線でつないだりする）したり、新たな考えを付け加えたりしてまとめていくのに有効である。つまり、話し合いの流れを視覚的に捉えることができ、児童の思考の道筋が分かる。

グループ編成の工夫

自分の伝えたい話題に沿って3～4人からなるグループ編成をした。参加者全員が話し合いへの参加意識をもち、対話的な話し合いの活性化を図ることができると考えた。

3. 研究経過

5月23日（月）	都小国研多摩地区研究会 総会	青梅市立第二小学校
6月24日（金）	令和4年度の研究計画	府中市立府中第二小学校
7月25日（月）	学習指導案検討	府中市立府中第二小学校
9月2日（金）	学習指導案検討	府中市立府中第二小学校
10月13日（木）	学習指導案検討	府中市立府中第二小学校
11月29日（火）	学習指導案検討	府中市立府中第二小学校
12月26日（月）	学習指導案検討	府中市立府中第二小学校
1月13日（金）	学習指導案検討	多摩市立貝取小学校
2月7日（火）	研究発表	多摩市立貝取小学校